

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.191

2015/10/19

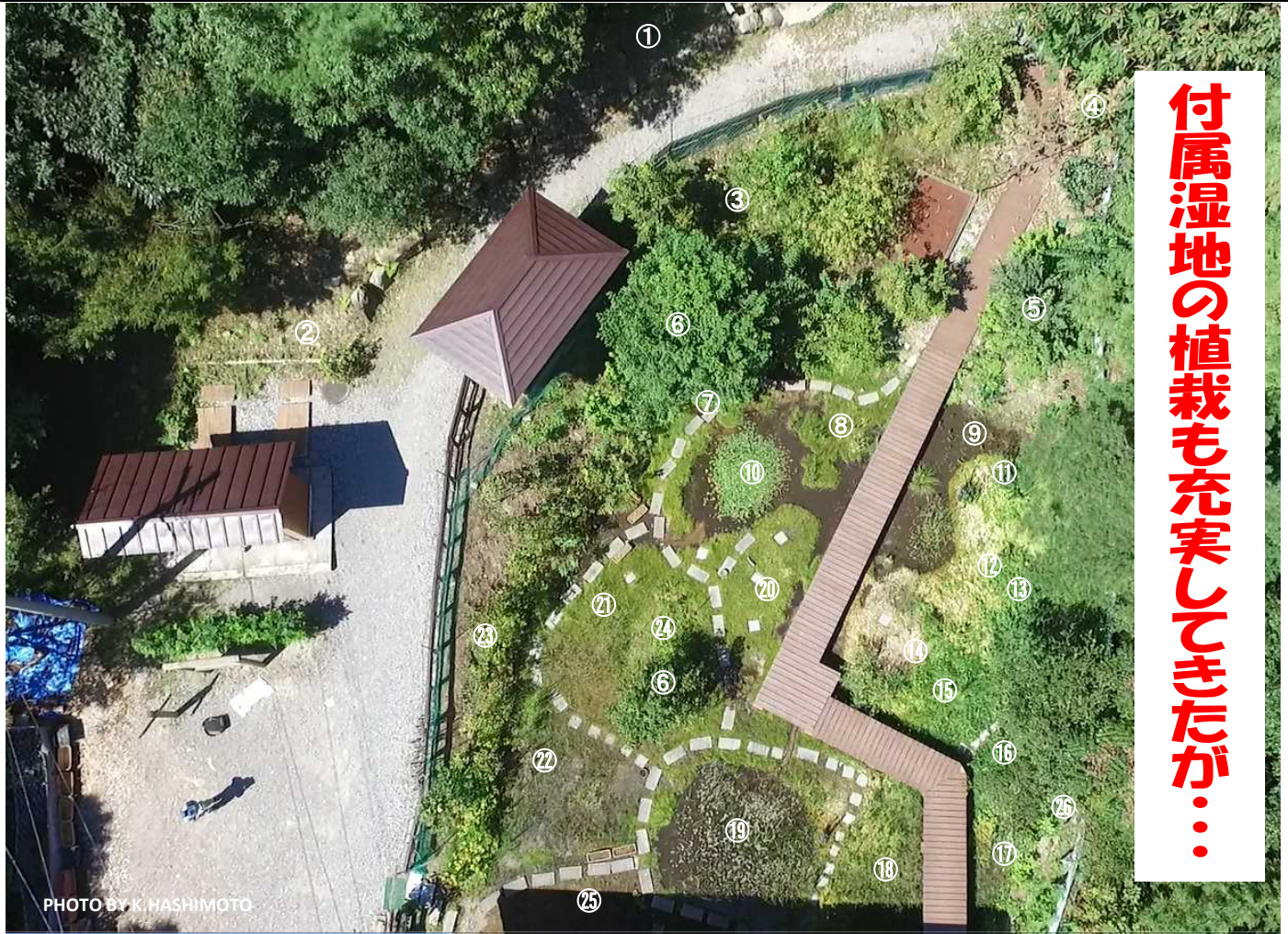
山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

PHOTO BY K. HASHIMOTO

付属湿地の植栽も充実してきたが…

付属湿地は、最初山門湿原内を歩くことが出来ない代償ビオトープとして計画しました。2003年の造成・2004年からの植栽開始から12年(この間に湿原から採種した植物を育種植栽)でこの写真の状態になりました。今では単に湿原の植物を観察する代償という意味を越えて稀少種の保護という一面も持つようになりました。ただ種子飛散や地下茎の伸張で分布を拡大するものをどのように管理するかが大きな問題です。これは観察者が見やすいというだけで無く、個々の植物の生育条件(日照・水分等)の違いを考えて管理する必要があるためです。特にいわゆる雑草群を如何に制御(除草)するかが最大の課題です。写真番号の部分の主な植物は以下の通りです。①ブナ・ヤマボウシ②リンドウ③ササユリ・クサレダマ・ゼンマイ・フキ④ヤブツバキ・アジサイ(園芸種)⑤マンサク(園芸種)・キブシ⑥サクラバハノキ⑦オオミズゴケ・オオバギボウシ⑧サワギキョウ・サワヒヨドリ・サギソウ・サワラン⑨ミツガシワ⑩ヒツジグサ・ジュンサイ⑪サワギキョウ⑫サワヒヨドリ⑬ミソハギ(山門水田から)⑭トキソウ・サギソウ・カキラン・ミヤコアザミ・コバギボウシ・リンドウ⑮サワシロギク・コオニユリ・レンゲツツジ⑯ヌマトラノオ(山門水田から)⑰アケボノソウ・オオニガナ(山門の水田から)・キセルアザミ⑱クサレダマ・アケボノソウ・ヒメシロネ⑲ヒツジグサ・ヒメミクリ・ヒメガマ・ヒルムシロ・アギナシ・コバギボウシ⑳サギソウ・サワラン・カキラン・モウセンゴケ・コバノトンボソウ・シロイヌノヒゲ・ミミカキグサ・ムラサキミミカキグサ・ホザキノミミカキグサ㉑ノハナショウブ・サギソウ・モウセンゴケ・ヤチスギラン㉒サワギキョウ・リンドウ・ミミカキグサ・ムラサキミミカキグサ・ホザキノミミカキグサ㉓タニウツギ・アジサイ(園芸種)・ノリウツギ㉔リンドウ・カキラン・エゾリンドウ・ミツバツチグリ㉕ナツツバキ・ヤマボウシ・タラノキ・タンナサワフタギ・ウツギ・ツクバネウツギ この他にもイネ科・カヤツリグサ科の植物が最初のオオミズゴケ(山門の放棄水田から)から移植した際に混じていたものがあります。このような環境となり多くのトンボ類も観察できるようになりましたが、同時にモリアオガエル・シュレーゲルアオガエル・トノサマガエル・アマガエル・イモリ特に今年はトノサマガエルの異常な増加でトンボの種数・個体数が激減したため70匹余捕獲し他の場所へ移しました。ビオトープとしてはこのような管理も必要になります。





湿原内の獣害防止のため 2011 年から南部湿原(①)に、2013 年から中央(②)・北部湿原(③)に防獣ネットと波板を設置しています。既号に書きましたように南部湿原のネットには 2011 年には 9 頭ものシカがかかり放獣に悪戦苦闘したものです。しかし今年には地域の猟友会の方々の森の近隣での有害駆除のおかげでネットにかかったのは 2 頭にとどまっています。しかし、湿原内の稀少種を保護するためには、ネット内に入られては意味がありません。そのため毎日このネットが破られていないか、倒されていないかを確認するための巡視を行



左の写真の●の位置

シカが浸入し脱出した跡(9/24)

っています。復元した北部湿原北端には、ミヤコアザミの保護区があります。ここにも防獣ネットが設置しています。草地の中を雨の日も巡視するため背丈ほどある草を巡視コースのみ刈り取ってあります。



④の内部



復元北部湿原のミヤコアザミ保護区にも防獣ネット

(15/09/23撮影)

北部湿原を復元したことで 2009 年に 3 株見つかったミヤコアザミは、その年から採種・育種を親株横で行い今では左の写真のように見事に株数も増え、種子の自然飛散による実生も生育するようになりました。

近い将来④の保護区以外にも分布が拡大することも考えられます。



作業現場を通過する訪問者(15/10/10)

補強ではすまなくなった観察コース沿いの木柵の解体・改修が終わり、引き続き階段の改修作業を行っています。



解体した木柵を利用して階段に(15/10/10)